



伊賀市消防団活性化計画

—伊賀市消防団活性化検討委員会 検討方針—
消防委員会 報告資料
2021(令和3)年7月21日



伊賀市消防団の経緯

活性化（適正化）による主な変革

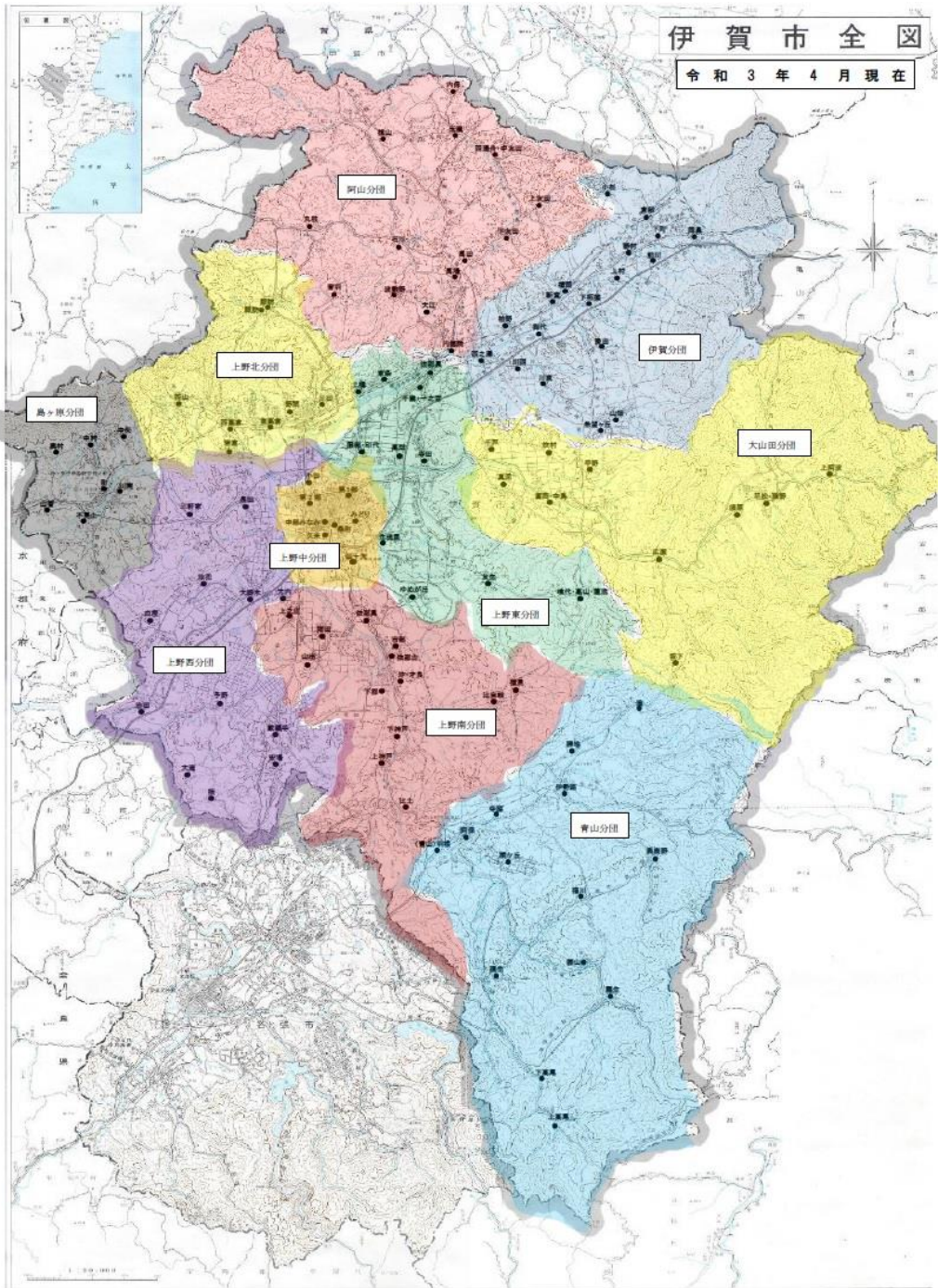
- 平成16年の市町村合併で伊賀市消防団が発足
条例定数1510人・6方面隊・消防車両138台
- 平成25年に消防ポンプ・車両の見直し（適正化）
6方面隊⇒10分団
消防車両138台⇒115台
- 平成30年に定数の見直し
条例定数1510人⇒1450人（適正化）
費用弁償（出動手当）一律2700円⇒最大4000円

伊賀市消防団の現在の編成 1 団本部 1 1 分団（女性分団含む） 1 4 5 0 名

1 基本団員定数 1 1 3 4 人 実員数 1 1 0 4 人

2 消防ポンプ車・小型動力ポンプ 配置数 1 1 5 台

3 支援団員（機能別団員）定数 3 1 6 人 実員数 3 0 4 人



伊賀市消防団の現状

市内における
消防ポンプ庫115ヶ所
(色分けは各分団の管轄)

消防ポンプ庫の分布図を見ると

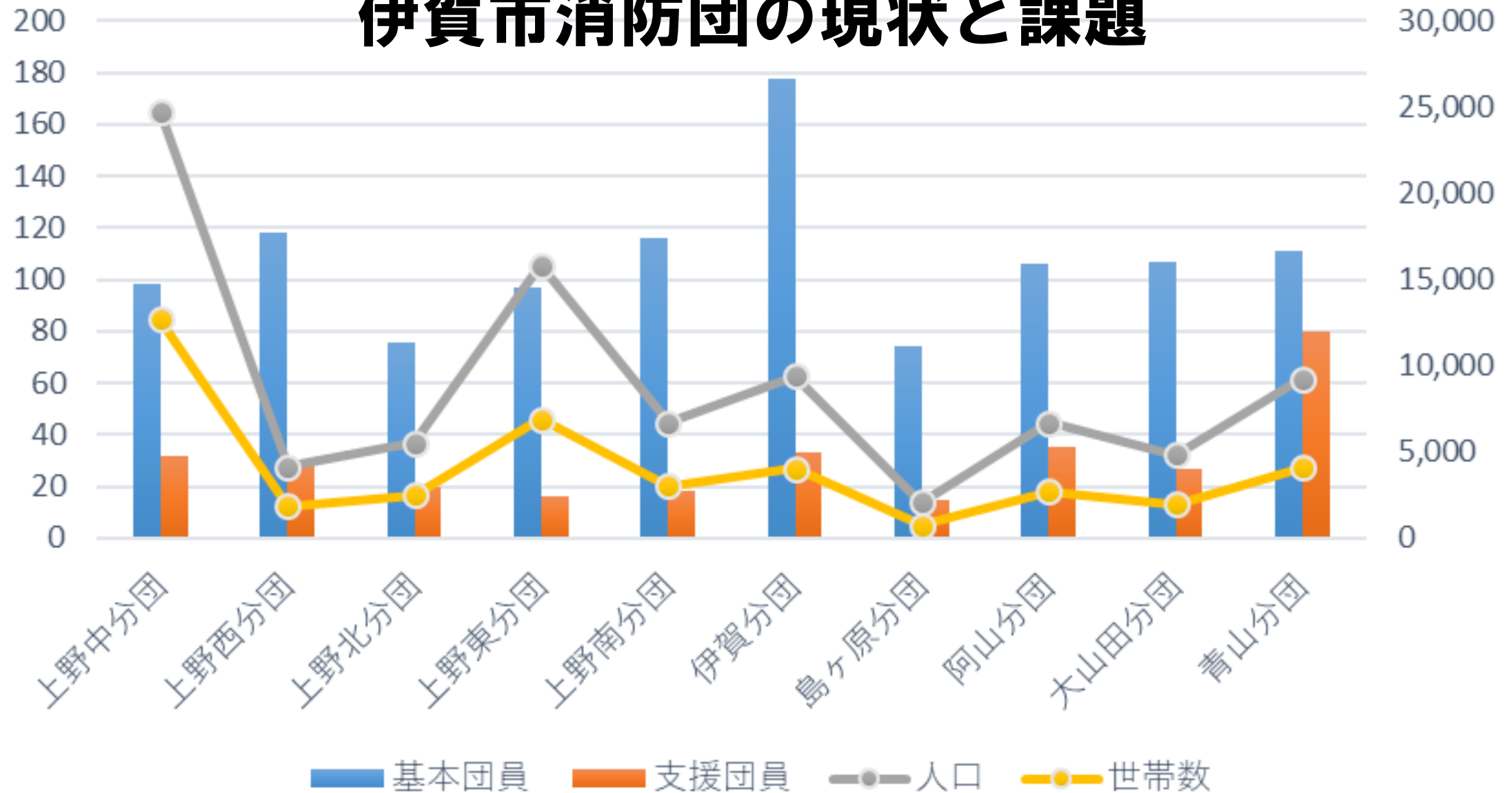
現在稼働中のポンプ庫は

色分けしたそれぞれの分団によって

配置数が不均衡であることがわかります。

分団員数と人口・世帯数の比較

伊賀市消防団の現状と課題

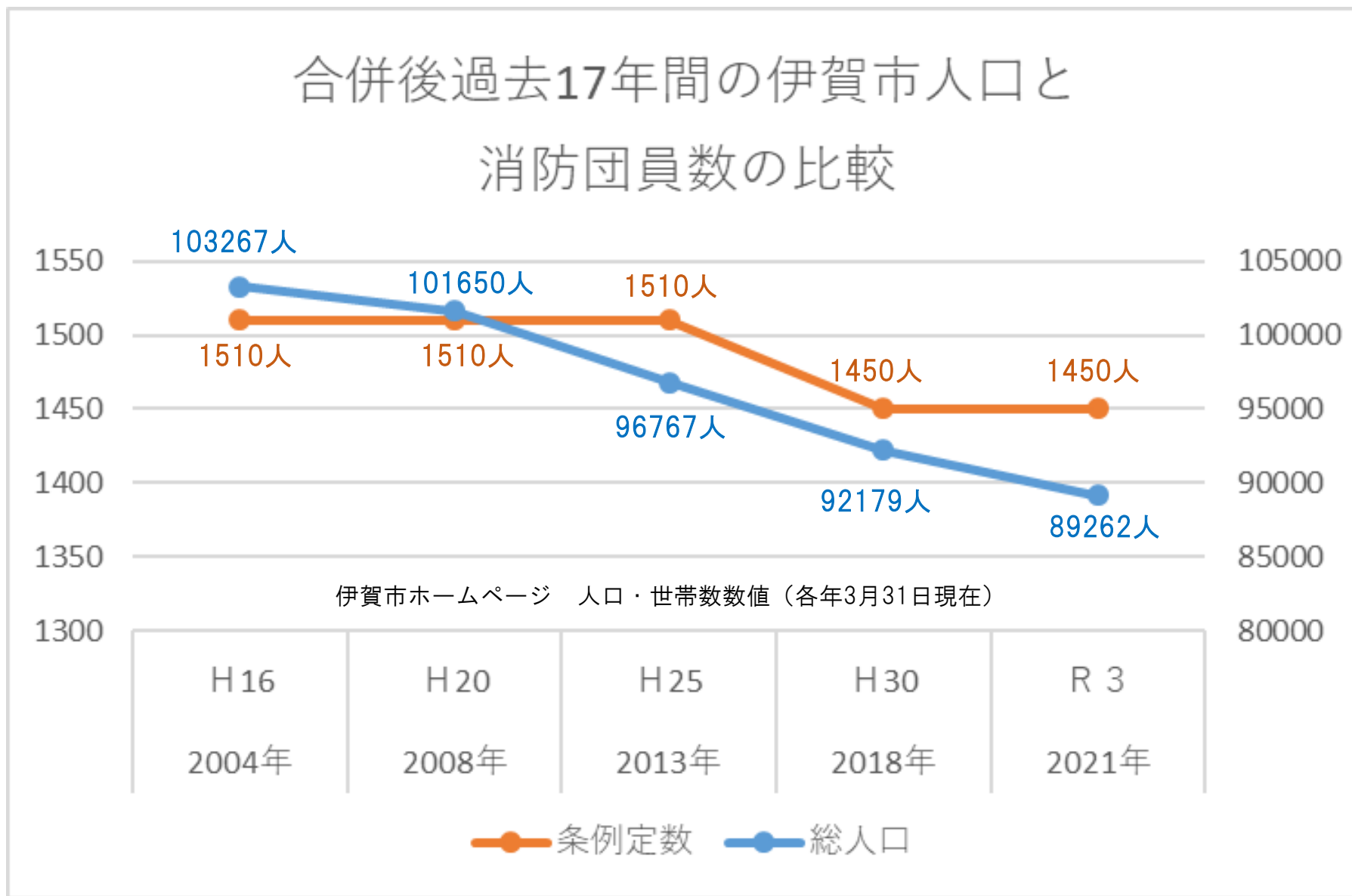


グラフが示している通り、人口・世帯数に対して

各分団の消防団員数は

非常に不均衡な配置となっています。

市町村合併当時から現在までの人口推移と消防団員数

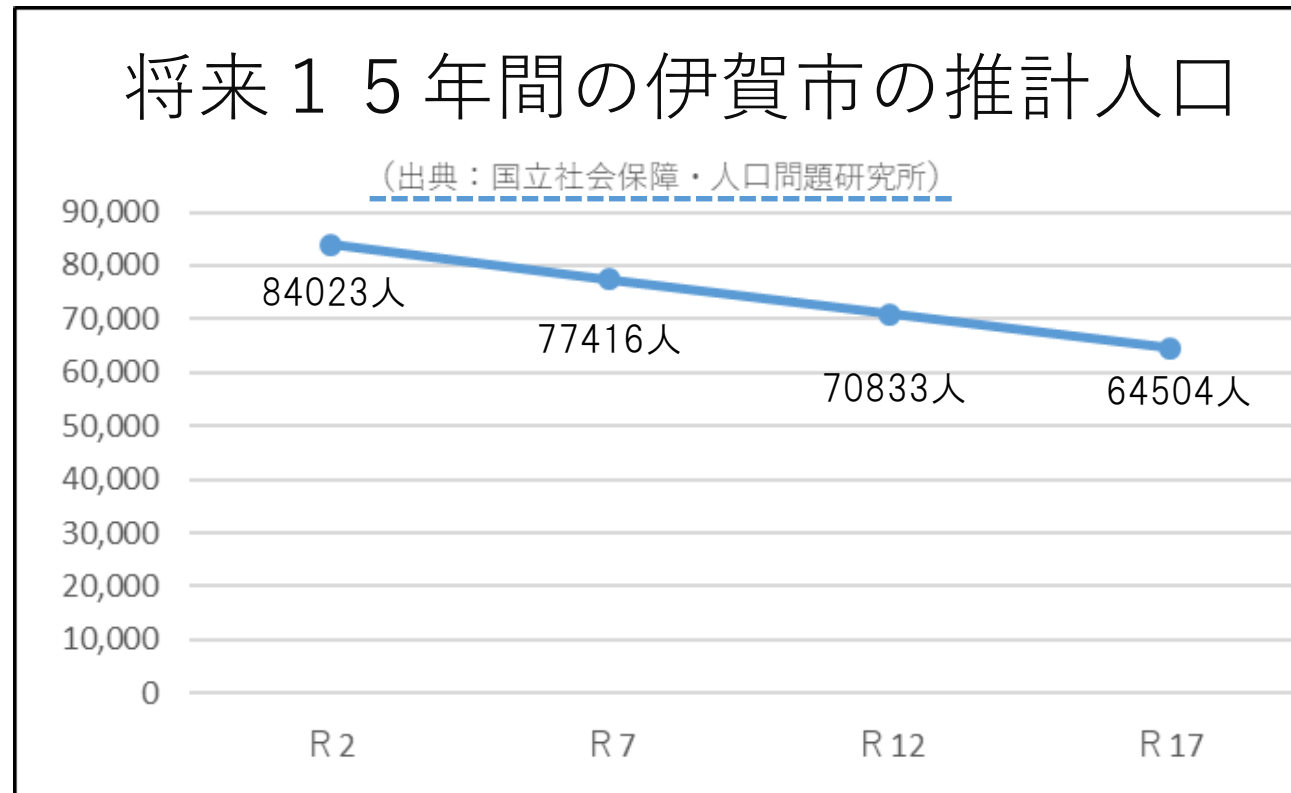


国が示す標準団体と伊賀市の比較

標準団体に比べて団員数が約2.5倍と非常に多くなっています。

国が示す標準団体と伊賀市の比較			
区分	標準団体	伊賀市	備考
人口	100,000人	88,863人	R 2 国勢調査速報値
面積	210km ²	558.23km ²	
分団数	15分団	11分団	
団員数	583人	1,408人 ^(R3.4.1現在)	1,450人(条例定数)
団員報酬(円)	36,500	15,000	年額
出動手当(円)	8,000	4,000	

将来15年間の推計人口と消防団員数の見直し



人口減少とそれに伴う若者の流出、地域活動に対する意識の希薄化などにより特に、過疎化・高齢化が進んでいる地域などでは、消防団員の確保が厳しい状況となっていきます。

将来推計人口が示すように、人口推移に合わせた団員数の見直しが必要になります。

火災や震災が起きたとき、常備消防ではカバーしきれない部分を担う消防団員は、単に減らせばよいというわけではありません

また、ただ多ければそれでよいということでもありません。各地域の消防団員を確保していくためには、人口減少に伴いながら団員数を見直さなければ、地域の負担が大きくなります。

安全の担保に基づく持続可能な適正化が必要になります。

伊賀市消防団員の基準数 = **安全の担保** = 地域負担 (人口推移)



消防ポンプに対しての基準人員数 (参集率)

×

消防ポンプの適正配置数 (消火能力数値)

+

支援団員・機能別団員数 (基本団員の補完)

基本団員

持続可能な総合防災力

現在、伊賀市消防団活性化検討委員会では安全の担保と持続可能な消防団のあり方を見直しています。

目指すべき「伊賀市消防団」の姿

近い将来に起こる大災害に、消防団は人命を最優先に守り、財産の損失を最小限に抑える必要があります。そのためには、**消防団を中核とした地域防災力の充実強化**は最重な課題です。

風水害と火災に強く、大地震に備え、地域の防災リーダーとして活躍できる伊賀市消防団を「**目指すべき姿**」

活性化とは

『消防施設、消防資機材の適正化』

災害活動には人員と装備・資機材が必要であり、**限られた財源の中で地域実情にあった消防力を適正化し消防力の確保**を図ります。

『人員の適正化』

多種多様な職業を持つ人により構成されていることから、常備消防の持つ装備、技術だけでは対処しきれない災害に対しても対応できる可能性を秘めた人材の宝庫です。

このことを念頭に踏まえ、**人員の適正化により団員確保における地域負担を軽減しながら団員処遇の改善を図り、地域の防災リーダーとして、その家族と職場の理解、地域の理解を高める**ことが重要です。

これからの伊賀市消防団

団員ひとりひとりがやりがいを感じる
家族・地域・職場から存在価値を認められる

地域防災力の充実強化の中核組織
大地震・風水害・火災に強く
地域の防災リーダー

持続可能な公助力を提供するために
検討を進めています